

おびひろ上下水道ビジョン(2020-2029)

市民に信頼される公営企業として安全で安心できる上下水道を維持管理し、次世代につないでいくため、ビジョンでは、基本理念と、それに基づいた3つの目指すべき方向、7つの基本方針、17の実施策を以下のとおり定めました。

| 基本理念 | 目指すべき方向 | 基本方針 | 実施施策 |
|--|-------------|---|------|
| <p>未来につなぐ信頼される上下水道</p> <p>安全 いつでも安全に安心して利用できる</p> <p>強靱 災害に強く迅速に対応する</p> <p>持続 健全かつ安定的な運営を持続する</p> | ①水道水源の保全 | 1) 水源の水質保全 | |
| | ②施設の機能保全 | 2) 計画的な施設更新 3) 汚水処理施設の最適化 4) 配水管理体制の維持 | |
| | ③災害対策の強化 | 5) 施設の耐震化の推進 6) 浸水対策の推進 7) 災害時の体制充実 | |
| | ④環境負荷の軽減 | 8) 下水道の普及促進 9) エネルギーの有効活用 | |
| | ⑤利用者サービスの向上 | 10) 直結給水の管理運用 11) 情報発信の充実 12) 学習機会の充実 13) 利用者負担の軽減 | |
| | ⑥組織力の向上 | 14) 効率的な組織づくりと人材育成 | |
| | ⑦経営基盤の強化 | 15) 水道料金、下水道使用料収入の確保 16) 計画的な企業債の借入れ 17) 経営効率化の推進 | |

ビジョン策定の趣旨

帯広市では、これまでで上下水道の中長期構想として「おびひろ上下水道ビジョン2010」を策定し、安心でおいしい水道水の安定的な供給や、適切な下水処理のほか、災害にも強い上下水道を目標に掲げ、取り組んできました。

今後、人口減少による水道料金・下水道使用料収入の減少や施設などの老朽化、災害対策などの課題に対処していくため、上下水道事業の将来の方向性を示す基本的な指針として、現ビジョンの計画期間の終了に合わせ、新たに2020（令和2）年度から10年間を計画期間とする「おびひろ上下水道ビジョン（2020—2029）」を策定しました。

本ビジョンの推進に当たっては、毎年度、目標や施策の実施状況を検証・点検する（PDCAサイクルの活用）とともに、帯広市公営企業経営審議会などのご意見を伺いながら、実施手法の改善や見直しなどに反映させていきます。

問い合わせ 上下水道部総務課（市庁舎水道棟2階、☎65・4212）

市民生活や経済活動に必要な不可欠な上下水道の機能を未来につないでいくため、上下水道事業の将来の方向性を示す基本的な指針を令和2年3月に策定しました。



帯広市上下水道部キャラクター ミナモくん

未来につなぐ信頼される上下水道を目指して

「おびひろ上下水道ビジョン(2020—2029)」



カラマンホール

目標設定

基本理念の具現化を図るため、目標値を定めました。

【水道事業】

| 指標名 | 基準値(H30) | 目標値(R11) |
|--------------|----------|----------|
| 水道管路の耐震適合率※1 | 82.8% | 90.0% |

目標値設定の考え方 国の耐震基準に適合した管種への更新を進めることにより、90.0%を目指します。



配水管の整備

※1 水道管路の耐震適合率=(国が示す耐震基準を満たした水道管路延長÷全管路延長)×100

【下水道事業】

| 指標名 | 基準値(H30) | 目標値(R11) |
|---------|----------|----------|
| 雨水整備率※2 | 71.4% | 76.3% |

目標値設定の考え方 近年多発する台風や大雨による浸水リスクが高い未整備地区を中心に整備を進めることにより、76.3%を目指します。



雨水管の整備

※2 雨水整備率=(雨水整備面積÷雨水整備必要面積)×100

収支計画

将来にわたって安定的に事業を運営していくため、今後10年間の収支計画を作成しました。

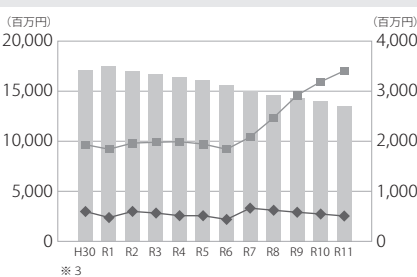
【水道事業】

老朽管の更新、中島配水場などの電気・機械設備の更新、稲田浄水場などの施設耐震化などを実施。



稲田浄水場 沈殿池設備

◆収支見通し



・純利益：4～7億円程度で推移
・企業債残高：減少傾向で推移
・累積資金残高：R11末 約34億円

※3 企業債残高（左目盛） 当年度純損益（右目盛） 累積資金残高（右目盛）

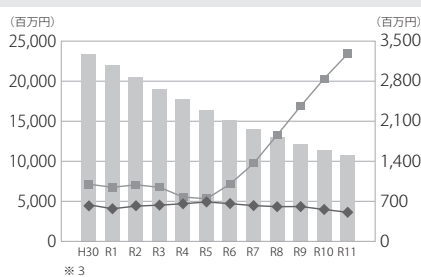
【下水道事業】

雨水管や汚水管の整備、老朽管の更新、帯広川下水終末処理場の電気・機械設備の更新、汚水処理統合に伴う施設整備などを実施。



老朽管の更新

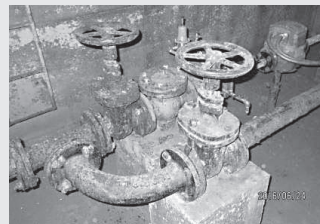
◆収支見通し



・純利益：5～7億円程度で推移
・企業債残高：計画期間中110億円程度減少
・累積資金残高：R11末 約33億円

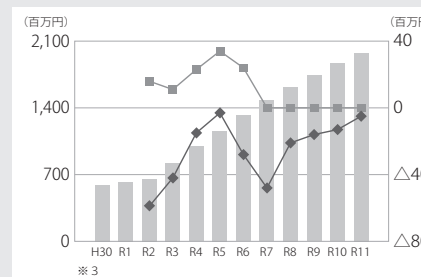
【簡易水道事業】

企業団からの受水に向けた送水管整備、川西配水場や大正配水池などの電気設備更新や施設耐震化などを実施。



減圧弁等設備

◆収支見通し



・企業債残高：増加傾向で推移
・累積資金残高：概ね0円で推移

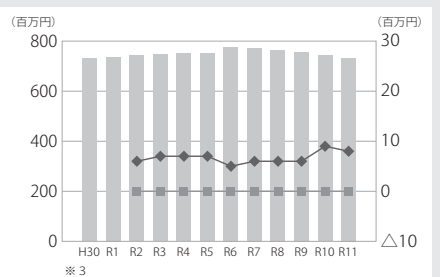
【農村下水道事業】

合併処理浄化槽の設置、清川下水処理場の設備更新などを実施。



合併処理浄化槽の設置

◆収支見通し



・企業債残高：一定程度で推移
・累積資金残高：0円で推移

2020（令和2）年度から公営企業会計へ移行